

『中華日本研究』投稿規程（2018年10月8日改定）

1. 投稿資格・投稿費

投稿者の資格は問わない。投稿費は論文1本につき2000元とする。

2. 論文審査

編集委員会の審査および（または）外部の匿名審査委員の審査を経て採択の可否を決める。なお、投稿された原稿は採択の有無に関係なく返却しない。

3. 投稿原稿の種類と内容

論文……………従前の研究成果に対する考察が十分に行われており、新規性や独創性が見られるもの

研究ノート…アイデアにユニークさがあり、将来の研究に資するもの

調査報告……日本に関連した調査や報告
（実践報告）

書評……………日本に関係する著作の書評

4. 投稿方法等

執筆要綱に従い日本語・中国語・英語のいずれかで執筆した完成原稿を編集委員会宛てに電子メールの添付ファイル（ワード：Word）で送付する。

5. 投稿先

chukajpn01@gmail.com

6. 投稿原稿の受付

投稿は基本的に随時受け付ける。原則として少なくとも4月末までに採択が確定した原稿については当年発行号（本誌は年1回発行を原則とし、毎年6月に発行予定）に掲載される。

7. 投稿原稿数

同一号に掲載される論文（研究ノート等を含む）は一人2本までとする。

8. 第一次審査

編集委員会で第一次審査を行い、第一次審査を通過したものだけが本審査に付される。第一次審査で、(1)独創性あるいはユニークさに欠ける（論文・研究ノート）、(2)非科学的もしくは非論理的である、(3)文法的なミスなど日本語・中国語・英語に大きな問題がある、(4)雑誌の目的に適合しない、と判断された場合は不採択となる。なお、論文の内容次第では第一次審査の段階で採択が決定されることもある。

8. 論文の修正

編集委員会は編集会議および（あるいは）外部の匿名審査委員の報告に基づいて投稿者に投稿論文の修正を求めることがある。修正を求められた投稿者は指定された期限までに、(1)修正を要求された事項に対してどのような修正を行ったかを説明した文章、(2)修正を施した原稿、を再提出するものとする。期限までに提出しない場合は不採択とする。

執筆要綱

1. 様式

- ①原稿：ワード（Word）文書、A4用紙横書きとする。
- ②日本語使用の場合：文字サイズ（12ポイント）、40字×30行、MS明朝体
- ③英語使用の場合：文字サイズ（12ポイント）、30行、Times New Roman 体
- ④中国語使用の場合：文字サイズ（12ポイント）、40字×30行、新明細体

2. 分量

- ①題目・要旨・執筆者名・所属・図表・参考文献・脚注（footnote）などすべてを含め 25 枚以内とする（日本語・中国語換算で 3 万字以内）

3. 原稿の構成

- ①日本語原稿・中国語原稿・英語原稿共通

第 1 項……題目（日本語・英語・中国語）、氏名（漢字等・英文）、所属（所属機関と部署名一学部あるいは学科一、漢字等・英文）、要旨（日本語・中国語原稿は原則 400 字以内、英語原稿は原則 100 単語以内）、キーワード（日本語・英語・中国語のキーワード、各言語 5 語以内）、連絡先（郵便番号・住所・メールアドレス、漢字等・英文）。謝辞等は原稿採択後に追加するものとし、原稿送付時には記載しない。

第 2 項以下…本文、脚注（footnote）、参考文献。2 ページ目以下には氏名・所属など投稿者が判明するような情報は掲載しない。

4. 章立て

- ①章・節・項については全角算用数字を使用する。

（例） 3. 生成文法と認知言語学
3. 1. 生成文法
3. 1. 1. 生成文法の概要

5. 引用

- ①本文および注において先行研究を引用する際は、引用元を（著者名、刊行年：ページ数）で記載する。

（例） …との結果が得られた（李，2008：12）。

陳（2008）によると、…である。

なお、著者が 2 名のときは、王・林（2007）、3 名以上の場合は、呉他（2006）とし、英文の場合は、Wu et al.(2006)とする。ただし、参考文献としては著者全員の氏名を記載する。また、複数の文献を参考にする場合は、セミコロンを用いて（江，2005；楊，2004a，2004b）とする。

6. 注記

- ①注は脚注（footnote）とする。文章の終わりに算用数字（上付き 4 分の 1）を用いて通し番号で示す。注の通し番号は半角上付き 4 分の 1 を使用し、注が複数行になるときは 1 行目だけを 1 文字下げる（右へずらす）。

- (例) 劉銘傳が……と主張したことは間違いない¹。
文天祥は諸葛亮の影響を受けていると考えられている²。

¹ この問題について、……………。

² もっとも、この点については反対説もある。……………
反対説は、……………
しかしながら、……………。

7. 参考文献

- ①参考文献は著者の姓によるアルファベット順とし、記載方法は、著者名、刊行年、タイトルの順とする。雑誌論文については、タイトルの後に雑誌名、巻(号)、掲載ページを書く。読者の便宜を考慮し、紀要論文に関しては紀要名に発行大学名がない場合は大学名を記載する。単行本の場合、タイトルの後に出版社と出版地(日本の場合は省略可、英文の場合は日本の出版社でも必要)を記す。単行本の一章の場合は、著者名、刊行年、タイトル、編者名(編著者名)、書名、掲載ページを記載する。文献が2行以上になるときは、2行目以降を2文字下げる(右へずらす)。

(例)

- カエサル, ユリウス著、源頼家訳(2006)『ガリヤ戦記と吾妻鏡』得宗書店
加藤週一(2018)『狼の歌』荒波書店
源頼朝・北条政子・三浦義明(2008)「吾妻鏡と北条氏」『大盛山大学歴史研究』2巻2号、pp. 33-44
<https://www.rekishio-moriyama-u.ac.jp/2008/yoritomo.pdf> (2018年9月1日取得)
紫式部(2006)「源氏物語と日本語文法」藤原道長編著『平安時代の日本語』鎌足堂学術書店、pp. 55-66
平清盛・平重盛(2009)「平家物語と坂東平氏」『文学研究』六波羅大学、1巻1号、pp. 11-22
吉田兼好(2009)「徒然草研究基本資料」
<http://www.yoshidakenko.co.jp/yoshida0901.pdf> (2009年3月5日取得)
杜 浦(2017a)「從唐宋間之貴族文化論日本源氏物語」『東亞日本文史學研究』1巻1期、pp. 1-20
——(2017b)『日本源氏物語之研究』臺北：加東出版社
Naoe, K.(2009). A note on Kagekatsu Uesugi and his relatives.
<http://www.naoekanetsugu.co.jp/naoe0902.pdf> (Accessed March 12, 2009)
Minamoto, Y.(2008). Languages in East Asia. Tokyo: Tokuso Publishing.
Takeda, A., B. Ashikaga, and C. Satake(2009). Yoritomo and his wife. Journal of GENJI Studies, 1(1), 11-22.
Toyotomi, H.(2007). Nobunaga's policies to reunify Japan. In Tokugawa, I. ed.,

Handbook of Nobunaga Oda. Kyoto: Ashikaga Publishing, 345-367.